

その1 虎 寅 とら

今年の干支は「寅」強い動物の象徴だが、とりわけ「五黄の寅」の年まわりで運気が強いとか。能に「龍虎」がある。「りようこ」と読む。天を支配する龍と地上の覇者、虎の組み合わせ。「相搏(あいう)つ」という闘争の印象があるが、前シテ(シテ・主役)の穏やかな老人(木こり)が旅の僧に龍虎の争いを予言して去ってゆくと、仙人(アイ・狂言)があらわれ龍は日照りに雨を降らせ、虎は魔を祓ってくれると徳を讃える。すると両者が出現し、囃子が雷、嵐を表現、勇壮な闘いを見せる。勝ち負けを決するのではなく、それぞれの譲らぬパワーを示し、天地の王者の威徳を表す曲。三年続きの災厄を祓ってほしい。能のシテはひとり。虎がシテ、龍はシテツレである。

「龍虎」の舞台は中国。我が国に虎はいない。人形浄瑠璃や歌舞伎の「傾城反魂香(けいせいはんごんこう)」には琵琶湖の畔に虎が出現する。名画の虎が襖絵から抜け出て、描いた絵師を助ける物語。しかし農民は畑を荒らすので困る。すると別の絵師が筆の力で消す。ふたつの奇跡は芸術の力の不思議を表現している。これが人気の芝居になったのは原作者、近松門左衛門の筆の力でもある。同じ近松は「国姓爺合戦(こくせんやかっせん)」という浄瑠璃でも虎を登場させる。父が中国、母が日本という混血の英雄、その名も「和藤内(わとうない)」「和」と「唐」の間の子という意味。実在した英雄、鄭成功(ていせいこう)だ。義理の妹を助けるに老母と中国に渡る。竹林で虎に襲われ、素手で立ち向かい、なんと最後はペットのように手なづけてしまう。



能「龍虎」

虎(右)は笹の枝。龍は打杖(うちづえ)を手に持っています。



冠についている作り物の虎

このくだりが花柳界のお座敷芸「とらとら」となる。屏風の両側に芸者と客。

♫ 和藤内がエンヤラヤーと捕えし獣(けだもの)は とらとら とーらとら

唄の終わりで槍を持つ姿、杖を突く姿、四つん這い姿のどれかで前へ出る。槍(和藤内)は杖(母)に負けるが四つん這い(虎)には勝つ。逆に虎は母に勝つという じゃんけんと同じ三すくみゲーム。日本の芸能は奥深い。

文楽では重い曲「摂州合邦辻(せっしゃうがっぼうがつじ)」玉手御前(たまてご ぜん)はお家騒動から義理の息子、俊徳丸(しゅんとくまる)を守るため、邪恋に見せかけ毒酒で盲目にし相好も崩してしまう。元武士で出家した玉手の父は娘を許せず刀にかける。虫の息で吐露する真実。自分の生き血を飲ませると、俊徳丸の病が癒(い)え、元の貴公子の姿に戻る奇跡がおきる。玉手御前は寅年の女。寅の月日が重なる日の寅の刻(午前4時ころ)に生まれた。その生き血パワーを持つ義母の自己犠牲である。寅年のあなた指でも噛みますか？

干支十二種の動物と伝統芸能をテーマに一年連載します。



諫山さんが描く寅

『唐子寅図』

現在、諫山さんの展覧会が開催されております。

<日本画家 諫山 宝樹 展>

国宝仁王門大修理勸進 秘仏本尊特別ご 開帳

同時開催 於吉野山 金峯山寺蔵王堂奥殿本地堂

令和4年3月26日(土)～5月8日(日)午前

8時30分～午後4時